

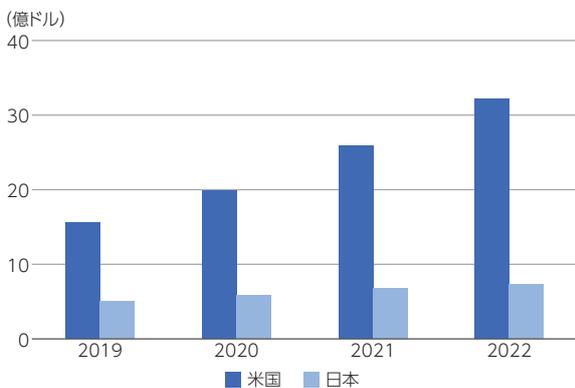
米国ペット保険市場からみた ウェルネスサービスの可能性

急成長している米国のペット保険市場において、大手ペット保険会社はペットの健康を維持するための日常的、予防的ケアの費用をカバーするウェルネスサービスを提供している。日本においても、付帯サービスの一つとして、ウェルネスサービスの可能性について検討すべきではないだろうか。

急成長する米国のペット保険市場

米国のペット保険市場は、日本を大きく上回る水準で成長している（図表1）。ペット保険市場の2020～2022年の保険料収入の年平均成長率（CAGR）を比べると、日本の12%に対して、米国は27%となっている。その主な要因として、米国は犬猫の飼育頭数が約1億5,000万頭と日本の1,813万頭を大きく上回る市場であること、ペット保険の加入率がまだ約2～3%にとどまっており新規の加入余地が大きいことが考えられる¹⁾。

図表1 ペット保険の保険料収入の推移

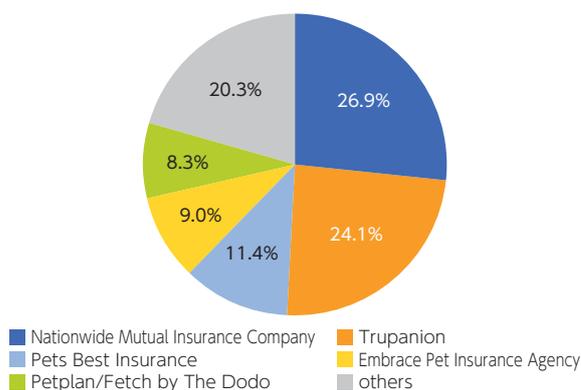


(出所) 各種資料²⁾を基に野村総合研究所作成

米国のペット保険会社

急成長する米国のペット保険市場では、ペット保険会社の競争も激しくなっている。マーケットシェアを見ると、上位5社が約8割を占めている（図表2）。最大手が最も歴史が古いNationwide社である。2位の

図表2 米国ペット保険市場のシェア



(出所) 各種資料を基に野村総合研究所作成

Trupanion社は、手厚い補償を高め保険料で提供している。一方、3位から5位のPets Best、Embrace、Fetchの各社は、より安い保険料で必要な補償をバランスよくカバーする商品を提供している。

各社の商品・サービスを比較すると、上位5社のうち、Trupanion以外の4社が、ウェルネスサービスを提供していることが分かる。ペット保険の比較サイトでも、保険料、補償割合、保険金支払限度額、免責金額等と並んで、ウェルネスサービスについて比較できるようになっている。ここで、米国のペット保険会社が提供するウェルネスサービスについて紹介する。

米国ペット保険のウェルネスサービス

従来のペット保険商品が、予期せぬ事故や病気を補償するのに対して、ウェルネスサービスは、ペットの健康を維持するための日常的、予防的ケアの費用をカバーするサービスである。

例えば、Nationwide社は年間の上限500ドルの範囲

NOTE

- 1) 2020年ベースでは、米国の犬猫の飼育頭数約1億5,000万頭（出所：AVMA, 2020）に対して、被保険ペット頭数は約310万頭（出所：NAPHIA, 2020）であり、ペット保険加入率は約2%程度となっている。それに対して、日本の犬猫の推計飼育頭数は2020年1,813万頭、2022年1,589万頭（出所：一般社団法人ペットフード協会2020年、2022年調査）、加入率は2020年14.4%、2022年18.7%（出所：アニコムグループ中期経営計画、アイペット損保ディスクロージャー資料）である。
- 2) Report Ocean: USA, UK & Sweden Pet Insurance Market, 2023, アニコム損保 2023ディスクロージャー資料、株式会社富士経済「2023年 ペット関連市場マーケティング総覧」調査を基に野村総合研究所作成。為替レート150.1円/ドル（2024年3月1日）。
- 3) 米国の犬の保険において、事故と病気を対象とした保険の平均年間保険料約640ドルに対して、ウェルネスを組み込んだ場合の平均年間保険料は約1,134ドルとなっている（NAPHIA, 2022）。

で健康診断やワクチン接種、駆虫等を利用できるウェルネスサービスを提供している。Pets Best社のウェルネスサービスは、歯のクリーニングや予防薬、健康診断等をカバーし、上限金額に応じて2プランある。Embrace社のウェルネスサービス（図表3）は、グルーミングや薬用シャンプー、足の爪切り等、他社に比べて幅広い支払い対象を売りにし、3通りの上限金額から選択できる。2023年には、Fetch社も追随し、新たに他社同様のウェルネスサービスを導入した³⁾。

ウェルネスサービスの支払い対象となるサービスは、健康診断、避妊・去勢手術、予防接種、歯のクリーニングなどが一般的である。保険会社によっては、グルーミングやシャンプー、足の爪切り等、より幅広いサービスを支払い対象としている。

図表3 Embrace社のウェルネスリワードの対象項目

対象項目			
健康診断、ウェルネス検査	ワクチン接種	ノミ・ダニ・心臓病・予防薬	避妊・去勢手術
マイクロチップ	栄養補助食品	グルーミング	薬用シャンプー
足の爪切り	定期的な肛門腺洗浄	ペット用ウェアラブル機器	火葬・埋葬
胃洗浄	予防的な歯のクリーニング	処方されたダイエット食品	トレーニング
定期的なカイロプラクティック治療	レイキ、マッサージセラピー、鍼灸治療		
股関節形成不全の検査、レントゲン写真、その他のOFA検査	糞便検査および定期的な血液検査		

（出所）Embrace社ウェブサイトを基に野村総合研究所作成

ケアは補償の対象外となっている。爪切りやシャンプーなどの日常的ケアについても補償対象外である。一部のペット保険会社では付帯サービスとして、健康度チェックや健康診断を組み込む動きがみられる程度である。

一方、ペットショップにおいて、ペットの購入者に健康診断、ワクチン、避妊・去勢手術に使用できるチケットを提供するケースがある。また、一部のペットサロンにおいても、定額料金を支払うことで、シャンプーや爪切りなどの日常的ケアを利用できるサブスクリプションサービスが提供されている。このような動向を鑑みると、日本においても予防的ケアや日常的ケアについて一定のニーズがあると考えられる。

以上のように、急成長する米国のペット保険市場では、ペット保険会社同士の競争が激しくなり、病気やケガといった治療費だけでなく、ウェルネスサービスも含めた競争へと軸が移ってきている。日本のペット保険市場においても、少額短期保険業者の参入を契機に価格競争が始まっており、将来的には、ペットの健康を維持するための日常的、予防的ケアの費用をカバーするウェルネスサービスの分野が拡大し、競争が激化する可能性がある。

ウェルネスサービスについて早期に検討し、日本における顧客ニーズを調査し、想定される頻繁な支払処理に備えた業務対応等についても検討を始めるとよいのではないかと。

日本のウェルネスサービス

ペット保険は、病気やケガの治療費の補償を対象としているため、基本的に健康診断や予防接種などの予防的



Writer's Profile
松尾 茂 Shigeru Matsuo
 保険デジタル企画部
 チーフコンサルタント
 専門は保険ビジネス
 focus@nri.co.jp